



平成 29 年 11 月 14 日

各 位

会社名 日機装株式会社
代表者名 代表取締役社長 甲斐 敏彦
(コード番号 6376 東証第1部)
問合せ先 取締役副社長 中村 洋
(TEL. 03-3443-3717)

連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向及び米国 Cryogenic Industries グループ (以下、CI グループ) 買収に伴う当期連結業績への影響を踏まえ、平成 29 年 2 月 14 日に公表した平成 29 年 12 月期連結業績予想を、下記の通り修正しましたのでお知らせします。

記

1. 平成 29 年 12 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	140,000	6,000	5,500	4,500	63.25
今回修正予想 (B)	140,000	4,000	3,700	2,500	35.12
増減額 (B-A)	-	△2,000	△1,800	△2,000	
増減率 (%)	-	△33.3%	△32.7%	△44.4%	
(ご参考)前期連結実績 (平成 28 年 12 月期)	132,890	4,893	4,201	2,729	36.93

2. 修正の理由

営業利益の減少見込みについて、CI グループの株式取得に関連したアドバイザー費用、のれん償却費の計上、及び CRRT 事業の業績悪化による利益減少が大きな要因を占めています。その他では、前年度比では 5 割程度に減少しているものの完結途上にある品質不適合対策費用の計上、宮崎新工場及び東村山航空宇宙工場の立ち上げ費用の計上が挙げられます。

CI グループについては、株式取得後約 4 ヶ月間の業績取り込みになりますので、連結業績に与える影響は限定的となります。CRRT 事業については、抜本的な事業体制の見直しを図るとともに、新型装置の開発を急ぎ、早期の業績回復を目指します。品質不適合対策については、当期の主要課題として全社を挙げて真摯に取り組んでいるものの、未だ完全終結に至っていない案件があり追加費用の発生に至ったものです。来期以降、LNG 需要の高まりや航空部品の出荷増加見通し、開発製品の市場投入や不採算事業の見直しなどにより、新たな事業成長の種を育てつつ、抜本的な事業構造の転換を進めてまいります。

また、想定為替レートは、107 円/米ドルから 112 円/米ドル、117 円/ユーロから 132 円/ユーロへ変更しています。

なお、配当予想については変更ありません。

(参考)

CI グループの通期業績予想(平成 29 年 8 月 22 日～平成 29 年 12 月 31 日)

	売上高	営業利益
	百万円	百万円
今回予想(日本基準)	5,400	(※)△290

※のれん償却費 680 百万円控除後 (現時点で入手可能な合理的な情報に基づく暫定的な金額)

平成 29 年 12 月期の期末決算から IFRS を任意適用する予定です。IFRS 適用による主な影響は、のれん償却費 (年間 2,600 百万円) がなくなることであり、影響を考慮した通期連結業績見通しは以下の通りです。

	売上収益	営業利益	当期利益
	百万円	百万円	百万円
今回修正予想(IFRS)	140,000	6,800	5,300

以上